

## 《単位互換提供科目詳細（シラバス）》

* 科目 No.	2103
----------	------

## 科目概要記入欄

1. 開設大学	広島大学 経済学部		開催方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面（東千田キャンパス） <input type="checkbox"/> オンライン（同時・録画・資料提示） <input type="checkbox"/> 対面（　　）・録画		
2. 科目名	正式科目名 副題	経済史総論			クラス名 配当年次 受入学年	
	旧科目名					
	学問分野	番号	23	名称	経済学	
サテライトで開講される科目の科目群			A群	B群		
3. 担当教員名	森 良次					
4. 単位数	2 単位	5. 開講学期	前期			
6. 開講期間 曜日・時間	2021年4月12日(月)～2021年8月2日(月) 月曜日 18:00～19:30					
個別開講日	1回目 4/12	2回目 4/19	3回目 4/26	4回目 5/10	5回目 5/17	6回目 5/24
	7回目 5/31	8回目 6/7	9回目 6/14	10回目 6/21	11回目 6/28	12回目 7/5
	13回目 7/12	14回目 7/19	15回目 7/26	16回目 /	試験日	8/2
7. 基礎知識の有無	2. 「基礎知識を必要としない科目」					
8. 募集人数 (総授業定員)	5 人 (　　人)	9. 定員超過時の 選考方法	書類審査			
10. 科目内容・ 授業計画	<p>経済学部で経済史を学ぶメリットの一つに、政治と経済の相互規定的な関係に着目し経済の歴史（動態変化）を捉えるという点があげられます。これは、経済過程を政治や社会から切り離して市場の自律的な運動法則・メカニズムの解明を旨とする学問的営為に対して、経済史がなしうる貢献の一つと考えられます。</p> <p>2016年は、イギリスが国民投票でEU離脱を決定し、またアメリカ合衆国では大統領選挙を通じて孤立主義への回帰傾向があらわとなるなど、「戦後体制」の転換を実感させられる年でした。</p> <p>本講義では、戦後世界の形成にかかわる、アメリカの対ヨーロッパ政策とヨーロッパ統合の歴史を取り上げ、経済はそのときどきの国際政治や戦争にどう関係していたのか、あるいは逆に国際政治や戦争は経済のあり方をどのようにかえ今日に至っているのか、といった問題を議論します。具体的な授業内容は次の通りです。</p> <p>第1回 導入        第2回 仏独の歴史的和解とヨーロッパ統合の理念        第3回 ヨーロッパ統合とイギリス        第4回 アメリカ外交の孤立主義的伝統とパクス・アメリカーナ        第5回 アメリカの対ドイツ政策とヨーロッパ統合        第6回 マーシャルプランとヨーロッパ統合        第7回 フランスにとってのヨーロッパ統合        第8回 西ドイツにとってのヨーロッパ統合        第9回 アメリカ「核の平和利用」政策とヨーロッパの原子力産業(1)        第10回 アメリカ「核の平和利用」政策とヨーロッパの原子力産業(2)        第11回 アメリカ「核の平和利用」政策とヨーロッパ統合        第12回 ドイツと日本-二つの戦後        第13回 EUとドイツ        第14回 EUとイギリス)        第15回 まとめ     </p>					
11. 試験・評価方法	期末試験等					
12. 別途負担費用	なし					
13. その他特記事項	なし					
14. サテライト科目の社会人受講について	科目等履修生（単位付与）として受け入れ			可	否	
	聴講生（単位認定不要）として受け入れ			可	否	

※コロナ禍の影響により、対面授業はオンライン（同時）へ変更になる場合があります。